

- ちょっと小金原 #24 -

地域の子ども達として

松戸市立栗ヶ沢小学校 校長

うきやとおる

浮谷 融

栗ヶ沢小学校は、昭和44年4月1日小金原団地の開発に伴い、市内18番目の学校として開校しました。開校40周年を過ぎ、親子2代で「栗っ子」という家庭も多くあります。また、小金原には「小金原おやじの会」のように子ども達のために活躍する組織があり、とてもうれしく思っています。それと同時に、子ども達の登下校を見守ってくださる方、学校の樹木の剪定などのボランティアをしてくださる方、あるいは職場体験事業などを受け入れてくださる商店、事業所の皆様がいらっしゃいます。さらに、地域行事にも「栗っ子」に活躍の場をいただくなど、「地域の学校」として皆様に大切にされているという思いを強く持っています。これは、小金原地域のすべての学校の思いでもあります。

昨年は東日本大震災というつらく、かなしい出来事がありました。その際に、被災者の方が子ども達をみつめ「この子達は、私達の希望です。」と話されていたことが耳から離れません。ここ小金原でも同じであると思っています。「子ども達は、未来への希望」です。そして、教育に携わる者の責任とやりがいはこの「未来」を育てることと思っています。家庭・地域の皆さんと「しっかりかみ合う歯車」のように、協力・連携していくことで、子ども達のよりよい成長があると思います。今後とも、子ども達を温かく見守り、時にはご指導いただければ幸いです。（栗ヶ沢小学校ホームページもぜひご覧ください。）